

**WEEKLY SIGNAL**

平成27年4月10日(金) 1270号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	4/13 (月)	4/14 (火)	4/15 (水)	4/16 (木)	4/17 (金)
無担保O/N			0.010% ~ 0.025%		
銀行券	+ 1,400	+ 1,000	トシ	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 20,400	△ 2,000	+ 54,000	△ 25,000	+ 3,000
資金需給	不 19,000	不 1,000	余 54,000	不 26,000	余 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(30年)	源泉税揚げ	年金定時払い 国庫短期証券発行(2M) 国債発行・償還(2年)	国債発行(5年) 交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 900 CP等買入 △ 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,000 ETF買入 + 200	国債買入 + 11,300 短国買入 + 17,500			
(日本)	日銀金融政策決定会合 議事要旨(3月16、17日分) 地域経済報告(4月) 機械受注(2月) マネーストック(3月)	マネターサーベイ(2月) 営業毎旬報告(4月10日現在) 日本銀行が保有する国債の 銘柄別残高 日本銀行による国庫短期 証券の銘柄別買入額		対外対内証券売買(前週分) 業態別の日銀当座預金残高 (3月)	消費動向調査(3月)
(海外)		米 小売売上高(3月) 米 生産者物価指数(3月)	米 ページブック 米 NY連銀製造業景況指数 (4月) 米 鉱工業生産指数(3月) 米 NAHB住宅市場指数(4月) 米 対米証券投資(2月) 米 MBA住宅ローン申請指数 (10日終了週) 米 リッチモンド連銀総裁講演	米 住宅着工件数(3月) 米 新規失業保険申請件数 (11日終了週) 米 フィッシャーFRB副議長講演 米 アトランタ連銀総裁講演	米 CPI(3月) 米 シカゴ大学消費者マインド 指数(4月) 欧 ユーロ圏CPI(3月、改定値)

**[インターバンク市場]**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.070 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

**<インターバンク>**

今週の日銀当座預金残高は週初200兆円台から始まり、その後国債・国庫短期証券買入オペなどを主因に増加し、204兆円台で越週した。無担保コールON物の加重平均金利は週初から0.057~0.059%のレンジで推移して、週末となる10日には0.061%となった。ターム物に関しては一部で0.11%台後半の出合いが見られた。8日に実施された日銀金融政策決定会合では、金融市場調節方針の現状維持が決定された。また、木内委員より長期国債の買入の増加ペースを現行の年約80兆円から約45兆円に縮小する案が提案されたものの、賛成1、反対8で否決された。

日経平均株価は10日、一時2000年4月17日以来約15年ぶりに2万円台を回復した。

来週の材料として国内では13日の地域経済報告、海外では15日のページブック、17日の米国CPIやユーロ圏CPI等が挙げられる。

**[オープン市場]**

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.080 ~ 0.090
TDB 3M	△0.009 ~ 0.010
現先(on/1w)	0.050 ~ 0.090

**<CP>**

今週の入札発行額は約5,300億円で、期落ち額約4,400億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。期明けの発行復活が進まず、市場残高の伸びは鈍い。今週の3M物の入札発行レートは、0.080%台後半~0.110%近辺とほぼ横這いで推移した。現先レートは、0.050%~0.090%程度と、低下して推移した。来週の期落ち額は約5,600億円となっている。

**<TDB>**

9日に国庫短期証券3M第524回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0040%(前回債0.0160%)、平均落札レートは0.0032%(前回債0.0092%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.02%近辺の出合い、6Mは△0.01%近辺の地合い、1Yは△0.01%近辺の地合いとなっている。来週13日に2M、15日に1Y、16日に3Mの入札が行われる予定である。

**<レポ>**

足許GCは週初0.02~0.025%近辺の出合から始まり、TDB6Mの受渡となる8日のS/Nでは0.04%、9日のT/Nでは0.06%近辺まで上昇。9日には短国3M入札が行われたこともあり一時0.08%の出合まで上昇した。10日には短国・国債買入オペが合計2兆8800億円オファーされ、0.02%近辺まで低下し越週した。SCは10年331回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。O/N物では一時△0.20%近辺の出合も見られるなどタイト化した。5年123回債は一時O/N物で△0.40%での出合、20年152回債は一時O/N物で△0.20%、発行日エンドのターム物で△0.10~△0.15%での出合が見られ、いずれも来週の入札に向けてタイト化した。2年債は344・347・350回債、5年債は122・123回債、10年債は325・329回債、20年債は152回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。